

## 第4章 次年度の計画

今年度まで「科学的な見方や考え方を高め合う学習」に継続して取り組んだことにより、児童の学びの姿からある程度の成果を感じることができる。これまでの研究を継続しつつ、新たな取組を加えることにより、今以上に「科学が好きな子ども」を育成していきたい。

### 1 今年度の課題を基にした次年度の方向性

#### 課題

- これまでの「おや？なぜ？」「もっと～してみたい」という児童の意識を一步進め、児童が問題解決の必要性を高めるといふ点で、今後研究を深めなければならない。
- 今後も、主体的・対話的で深い学びの場を意図的に設定していく必要がある。
- 理学的環境も整い、理科が好きな児童が育ってきているからこそ、今後はこれまでの学びを活かし、地域へ発信していくことで、理科のよさや楽しさを実感できる児童の育成を目指していきたい。

#### 今後の方向性

- ①単元をデザインする ～解決したい思いが高く、意欲が持続する学習のストーリー設定～
- ②学びを地域に発信する～自分たちで考え、伝え、楽しむ活動～

次年度は、これまでの研究に上記の2点の取組を加える。

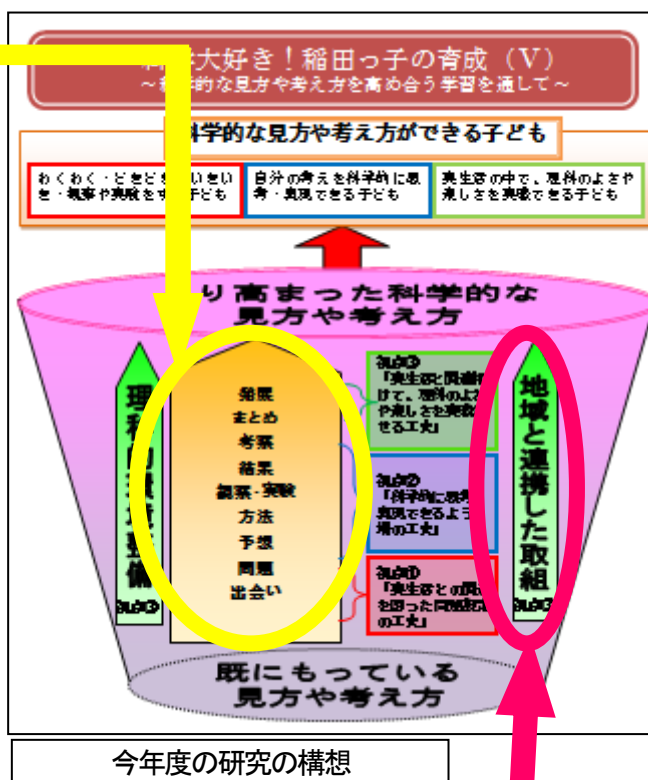
#### ①単元をデザインする

科学的な見方や考え方ができる子どもの育成を図るために、次年度は、これまでの問題設定に加え、児童が解決したいと思えるような日常生活と密接に関連した事象や解決しなければならない状況にある事象などと理科学習を結びつけて問題設定を行ったり、主体的・対話的で深い学びの場を意図的に設定したりしながら、単元を教師がデザインしていくことが必要である。

これまでの視点①、②、③に以下の点を加え、教師が単元をデザインしなければならないと考える。

- 児童の解決意欲が高まるような事象との出会わせ方の工夫 (視点①)
  - ・体験活動や日常生活の現象から
  - ・困っていること改善したいことから
- 解決意欲が持続し、科学的に思考・表現しながら学び合っていく場 (視点②)
  - ・主体的・対話的な学び合い場の設定
- 学習したことを基にさらに学びを深めていく活動 (視点③)
  - ・学びの深まりを実感させる

単元をデザインすることで、児童は目的を持った問題解決学習に取り組むことができ、科学的な見方や考え方ができる子どもの育成につながると考える。



#### ②学びを地域に発信する

理科や生活科の学習以外にも、「サイエンスタイム」などで本校児童は科学や自然に触れ合う機会に恵まれている。

そこで、次年度は、本校での学びを地域に発信することに取り組む。発信するためには、発信する内容や方法の検討を児童は行わなければならない。児童は検討することで、学びが深まり、発信することで楽しさと充実感を味わうことができると考える。